研修農場新聞

２面拡大号

（公財）農林水産振興財団
八王子研修農場
（発行責任者）
農場長　小寺孝治
（無料）

経験・熟考して、ニーズに応える魅力ある経営を！

何でも吸収して将来に活かそう

夏本番、研修生たちは、東京の農家になるために、作物と向き合い、病害虫や雑草、雨や暑さとも戦いながら、それぞれ独自の経営を目指し日々真剣に学んでいる。

知識・技術・経験・人脈がカギ

研修農場が開講して4年目の夏になる。毎年この時期に1年生から「2年生の行動や言動には重み（深み）がある。全然違う、さすがです」といった声を聞く。

入講当時、殆どの研修生は農業に関して知らないことばかりだが、一年間で得た知識や技術、実践経験、就農準備レベルの差などから発されるものなのだろう。

とはいえ東京は多様な農業が営まれ、栽培品目や規模、労力等により経営スタイルや栽培方法等は十人十色。ある意味正解は一つではない。こうした事から2年間で農家として生きるための術を学ぶには一日一日を大切にし、自ら積極的に考え行動することで理想の経営像を築いてもらいたい。

今後も研修農場では都内農家等の協力も得ながら生産から販売までの基本と研修生個々の将来を見据えた実践経験を重ねさせ、力強い東京農業の担い手（経営者）を育成していきたい。

昨年度卒業した第2期生らとも時々連絡を取り合っているが、就農1年目はみんな毎日大忙しで作付けや出荷等に精を出している。やはり研修2年目の就農モデルでの実践経験等が活かされている。この間、農場にも立ち寄られたOBGOBは、すっかり農家の顔になっていることに大きな喜びと今後の活躍に期待が膨らむ。

研修生の今

研修1年目と2年目では、当然カリキュラムや自分の経営像の重みなども異なるが、独立就農という最終目標は皆同じである。切磋琢磨するうえで研修生達の情報共有も重要だ。それぞれが現時点でどのような思いでいるのか?以下①～③の質問をしてみたので紹介したい。

①この2～3か月の感想？
②今後、自分が力を入れたいこと？③現在の不安、心配事、課題など

２年生（前列5名）、１年生（後列5名）

2年生の声

雨宮さんは、①研修2年目は、自分の計画に沿って全て自分の判断で行動するので、1年目5人で共同作業していた時に比べて、やりがいと緊張感を持って作物と向き合い、充実した毎日を過ごしている。反面、一人で生産管理する不便さ、人手があることの有難さを身に染みている。

②自分の就農計画を常に意識して、半年後に自信を持って農業経営が始められるように、一つ一つの物事、必要な設備や資材などを具体的にしていく。

③販売先の確保。就農開始時の労働力試算。暑い時期の体調管理など。

関さんは、①自分の計画で、栽培から出荷調整や直売の荷造り等を一人で行えることは、就農時のシミュレーションができて良い。

②将来作付け予定作物の栽培技術の向上。より具体的な経営計画の作成。

③販売先の確保が課題。決まった時期に決まった量の出荷ができるか不安。

玉川さんは、①播種時期や定植時期は作物に適した気温や日長を考慮することが重要と再認識。病虫害の早期発見のため、一日に一回は必ず圃場全体を観察することが重要。将来、主力品目となる作物の仕立て方や管理方法が実践できているので大変勉強になる。

②栽培管理、収穫、出荷調整など作業スピードの向上。病虫害の早期発見及び適切な農薬の選択。顧客に選ばれる荷姿の検討。営業活動用SNSの開設。

③現状、作業時間の足りない日があり、就農後が不安。台風や大雨などの事前対策や被害を受けた後の管理方法等の知識や経験が不足。

高見さんは、①圃場管理、講義、派遣研修やプライベートなどのスケジュール管理と情報共有の大切さ。

②就農に向けての心構えや体調管理。就農予定地域の方々との関係づくり。売り先確保のための営業活動。

③売り先との事前調整、農地の規模拡大。就農後に栽培する予定作目について、まだ経験不足な点があるので、色々と試してみたい。

中村さんは、①2年生になり、区画圃場の管理、経営面でも参考になる派遣研修等を通して、農業で生計を立てることは容易ではないことを痛感。一方で、新たな縁や、人との繋がりが自身をさらに成長させてくれている。時間に余裕がないが、新たな発見や学ぶことばかりで、毎日が楽しい！誰に何と言われようが、困難があろうが、私は生涯、農家であることを確信！

②人間力と忍耐を高める。常に謙虚な姿勢で、時を逃さず、全てを味方にしていく。苦手なSNSを駆使する。販路開拓には、営業も必要だが、自身からも発信していく。

③特になし

1年生の声

次に入講後3ヶ月を過ぎた第4期生の声を紹介する。

磯田さんは、①作物の育て方だけでなく、出荷調整や売り方まで教わることができるのは、トータルでどれだけ手間がかかるかをイメージできて良い。

②スピード感を持つこと。今後一人でやっていくには、実施可能な計画を立て、効

4～6月の主な出来事

(4月)
- 4日 入講式、6日 瑞穂町農地調整、18日 管理課視察
- 20日 東村山農地調整、21日 進行管理
- 25日 東村山農家視察、28日 事業説明会
- フードバンク提供　7、10、12、14、21日

(5月)
- 9日 八王子市農地調整、11日 事務局長ヒア、12日 企画係見学
- 16日 委託業務会議、19日 立川市、八王子市農業委員会
- 22日 施設点検（本庁）、25日 農業機械演習
- フードバンク提供　10、12、19、22、24、26日

(6月)
- 5日 町田市農業委員会、6日 理事会、8日 予算人員ヒア
- 21日 経営戦略室視察　23日 主計部視察、武蔵村山市農業委員会
- 26～30日 都庁食堂（新タマネギ）、30日 ショッパー取材
- フードバンク提供　2、9、12、16、23、26、28、30日

率的な立ち回りを意識していかなければならないから。③課題はいくつもあるが、病害虫の発生に全く気付けていない点は課題の一つ。病害虫防除の最適なタイミング及び方法を知るには、注意深い観察と経験が必要だと感じる。

加藤さんは、①土づくり、播種、栽培管理など、野菜を育てる流れが少しずつ理解できはじめた。天候や植物を見ながらの判断や病害虫の防除など、学ぶ前にはあまりイメージ出来ていなかったことを実感。②自身が就農した時に限られた資金や労働時間の中で、どのような方法でどこまで出来るかイメージすること。農業に携わる方に限らず、他分野の方との人脈づくり。③希望する地域の中でも、具体的にどのような環境下で就農できるか心配。就農時に教わったことを再現できるかも不安であるが、日々の研修内容を振り返り、習得できるよう努めていく。

熊川さんは、①採りたて野菜の美味しさや、種まきから収穫まで病気や虫、暑さ寒さ雨風と戦うなど手間暇がかかることに驚き。また先輩方の背中の大きさにも驚く。学習環境が想像を遥かに超えていて、ここまで親身になって教わったり、支えて頂けること。仲間に恵まれたことにも感謝。

過酷な自然を相手に様々な知恵を使って農産物を産み出すこの仕事は経験と知恵がものすごく大切であることを実感。②アカデミーでは体と頭を使って覚えることに集中したい。特に、色々な作業や出来事の背景を深く広く知ることを大切にしていく。また自分が目指す農業像の中で、自ら勉強や行動して経験や知識を増やして就農に向けた準備をしていく。③時間の捻出と体力筋力作り。やりたいことが沢山あって、目まぐるしい毎日だが、すごく充実している。とにかく行動することで解決するようにする。それでも時間が足りなくて優先順位をつけて取捨選択しながら行動していく。

佐藤さんは、①農業はとても頭を使うという事を感じている。施肥量計算、農薬希釈、圃場や資材の使い方、輪作計画、日当たりや水はけなど、とても考えることが多い。②将来の農業経営をより具体的にイメージしながら日々の研修に臨む事だと思う。作付計画はもちろん、どのチャネルにどの位販売できるか、販路開拓など、受け身ではなく自分で考えできる事は動いていく事が大事。③農薬に関する事が大きな課題だと思う。天候や作物の状態を把握しながら、必要な薬を適切に選んでいくという事が就農時にできるようになっているかが心配。

横山さんは、①農業は教科書通りに行かない。天候・植物の状態など多くのことを確認して、対応する応用力が必要だと実感。また、知識だけでなく、現場での基礎力（農業機械の基本操作・栽培方法の基本など）があった上で対応できると実感。②農業機械・農器具の操作。作付計画力（収支計画を立てるのに慣れたいため）。顧客確保の手段や直売所を開くために、何が必要なのか等について調べたい。③就農後の売り先確保。就農開始時の資金（農機具・資材の費用）。農業機械の操作に手間取る。疑問点について講師の方々に頼りがち。就農後のためにも、自から積極的に調べる癖をつける。

皆さん本当に純粋にそして真剣に農業で生きようと研修に励んでいる。アカデミーとしても、今後3カ月後、半年後には皆さんがさらに逞しく育つよう、日々しっかりと応援していきたい。

これまでの天候

４月は真夏日も数日あり平均気温は例年に比べてかなり高かった。５月は冷涼な日もあったが平均気温では例年を上回った。梅雨入りは6月8日頃でほぼ例年並み。６月は30℃を越える真夏日が続出。今後も熱中症対策は万全にしましょう！

各種ＳＮＳ情報

研修農場では、研修状況等をツイッターやフェイスブック、インスタグラム、ユーチューブで配信しています。ぜひ**「東京農業アカデミー八王子研修農場」**と検索してみてください！フォローもお願いします！

八王子研修農場
専用ホームページ

なお、本年6月より研修農場での直売情報をいち早くお届けするためＬＩＮＥ公式アカウントで友だち登録を始めました。友だち登録はトーク検索で「東京農業アカデミー八王子研修農場」を選択又は下記QRコードより可能。

研修農場スナップ

２０２３年　４～６月

研修棟前での直売研修
行列ができるほど人気。お客様の声がとても勉強になります。

収穫された新タマネギ、都庁食堂のランチで提供（6/26～30）

カブの洗浄、結束等の荷造り開始（6月中旬）

7kgの超大球を収穫

パッションの誘引や交配作業に精を出す（6/19）

手書きPOPづくり講習（6/2）

管理機を使い始める前のアドバイス（4/下旬）

高級メロン作りに挑戦（5/中旬）

ピーマンの初収穫（5/下旬）

順調に育つミニトマト（6/上旬）